

大井実の
BOOKな話

福岡市内で書店『ブックス
キューブリック』をいとなむ
大井実さんの、本のある日
常をつれづれに。
撮影/川上信也

クリスマスプレゼントに選ぶとしたら、センスがよくておしゃれで完成度の高い、この2作品



『おおきな木』
シェル・シルヴァスタイン/
村上春樹訳/あすなる書房/
1,260円



クリスマスプレゼントに本を1冊、あるいはCDを1枚、誰かに贈るとしたら？ センスがよくておしゃれで、趣味や嗜好が偏りすぎず、誰の心にも通じやすく、かといってありふれたものでもなく…。書店主として、そんなリクエストにお応えするとしたら、この2点を選ぶでしょう。本なら『おおきな木』。CDは『プロツサム・ディアリー』。

まず、『おおきな木』。64年にアメリカで出版された古い絵本ですが、いまだにロングセラーとして読み継がれています。村上春樹訳というのもさることながら、この本の素晴らしさはその内容。1本の木と1人の男の一生を描いたストーリーも、文章も、モノクロの線画で描かれた絵も、すべてがいたってシンプル。でありながら、人間の

生き方、愛とは何かを考えさせられる、とても哲学的な物語です。大人のための絵本といってもいいでしょう。男の欲するまま、自分の果実を、枝を、幹

を彼に与え続ける1本の木と、木からそれらを奪い続ける男。読む人にとつては木の哀れさと、強欲な男の愚かさだけが心に残ってしまうかもしれない。でも、この物語の本質はそこではなく、別の深いところにあるんです。与えることと与えられること、愛することと愛されること。実は両者はフラットな関係で、優劣もなければプラスマイナスもない。それがラストシーンで見事に表現された、実に秀逸な絵本だと思っています。

『プロツサム・ディアリー』はジャズ・ヴォーカリストのプロツサム・ディアリーのアルバムで、その歌声はとにかくチャーミング。一部のコアなジャズファンからは、あまりのキューートな歌声にさまざまな批判もあるようですが、私は大好きです。暖かい部屋でくつろいで聞くのにぴったりではないでしょうか。心が躍ったり、まどろんだり、冬の陽だまりのような気分になさしてくれるアルバムです。